

しらかわ大使懇談会

3月20日、東京都内で「しらかわ大使懇談会」が開催されました。

今回は、新たに2人の大使を迎え「国道294号白河バイパスを活かしたまちづくり」をテーマに意見を交わしました。

今月号では、しらかわ大使が思い描く「魅力的なまちづくり」について、その内容を抜粋してお届けします。



▲本市の魅力を語り合うしらかわ大使と市長

田口 小峰城と南湖公園が一本の道路で結ばれることとなります。新たな観光資源として、LRT（次世代型路面電車システム）や周遊バスを整備し、景色も楽しめるようにゆとりとしたスピードで走らせる。白河は観光スポットはあるのに、宿泊できる所が少ない。南湖周辺に魅力的な宿泊施設ができれば、民間の投資機運が生まれます。新たな視点で民間の活力を呼び込み、観光を基軸とした、さらなる地域活性化を期待しています。



Taguchi Shintaro
田口 信太郎 氏

東邦銀行取締役、元NHK福島放送局長

戸井田 バイパス沿線の町並みは、北海道から沖縄まで、どこも同じような風景になってしまふ。観光スポットをつなぐ道路として、観光客を意識した景観づくりが大切です。愛称で呼ばれるような特色のある「通り」になってほしいです。バイパス沿線に、道の駅や温泉・宿泊施設を備えた滞在型施設を整備し、サテライトオフィスを誘致したい。白河には地理的優位性や美しい自然環境、豊かな食文化などのポテンシャルがあります。



Toida Kazuhiko
戸井田 和彦 氏

学校法人立教学院常務理事、元日産自動車㈱常務執行役員

野崎 白河はリゾート地にも成り得るが、通過点で終わってしまう土地でもあります。いかにして停滞させるか。そこに行かなければ体験できない、食べられない、という価値を生み出すことが重要です。料理の魅力は新鮮な食材とともにあります。白河の山の幸と文化を融合し、白河人の人間味を加えれば、ここにはないものが創れるはず。人を魅了するのは古くて新しいものなのです。
川瀬 働き方改革が進む中で、働く場も多様化しています。サテライトオフィスの設置が相次いでいる徳島県では、ケーブルが張りめぐらされ、東京などの大都市と遜色のないICT環境が提供されています。豊かな自然や理想的な子育て環境を求めて移住するケースも増えています。白河でしかできない暮らし、白河にしかないオリジナルな子育て環境の魅力発信し「テレワーク+移住」を推進してはどうでしょうか。



Nozaki Hiromitsu
野崎 洋光 氏

「分とく山本店」総料理長



Kawase Nanao
川瀬 七緒 氏

推理作家、第57回江戸川乱歩賞受賞

矢崎 バイパスの整備によって人の流れは大きく変わってしまいます。古い通りも活かしたバランスの良いまちづくりを考えてほしいです。歴史遺産は古い町並みに残ります。古民家を活用したまちづくりで観光客を誘致する事例もあります。空き家となった古民家を点と線で集積、宿泊施設や飲食店などに生まれ変わらせることで、歴史的な景観と白河の魅力を高めることができると思います。
菅山 徳島県神山町は東京からも遠いのですが移住者がたくさんいます。古い家を太いインターネット回線があるスタジオ兼多目的オフィスに改修し、その施設を中心に暮らしています。ICT環境が充実し、食や子育てなどの暮らしに魅力を感じれば移住もあり得ます。例えば大規模研修施設を作って利用してもらい、白河の良さを知ってもらうのはどうでしょう。繰り返し研修に来るうちに白河に里心を持つてくれるかもしれません。



Yazaki Junko
矢崎 潤子 氏

㈱オフィスノベント代表取締役、クリエイター



Sugayama Akemi
菅山 明美 氏

㈱NHKエンタープライズ経営企画室部長